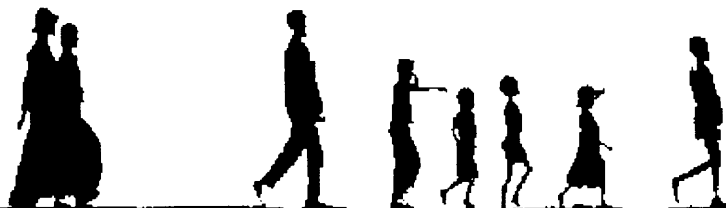


図書館通信

静岡大学附属図書館報

No. 140



2002.7

- すばらしい本の世界
- 新入生セミナーの報告
- シリーズ“!” 第8回
- はじめまして
- 平成13年度図書館利用統計
- 図書館からのお知らせ
- 図書館の動き
- 図書館開館・夏季休業案内

新シリーズ

すばらしい本の世界

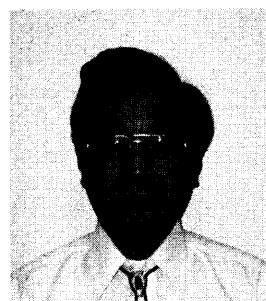
「IT革命」の時代です。本学も電子ジャーナルやWeb版のデータベース導入に力を入れています。しかしこれは図書館に科学技術万能の時代がやってきたということを意味しません。その技術を使うのは、近代のデカルト的理性だけでなく、ロマン的感性をももって生きている生身の人間にほかなりません。技術と感性とのあいだの距離が開けばひらくほど、その隔たりを埋めるためには、自分の感性とそれに根ざした想像力つまり自分以外の人間の感性を思いやる力を育てるための「能動的な活動」が必要になるでしょう（過ぐる20世紀は「理性の独走」が生み出した悲劇に事欠かない時代でもありました）。その「活動」が読書、とくに「感性的」読書です。感性と想像力を育むためには、とりわけ「ロマン」つまり文芸書とくに小説に親しむのが、今なおもっとも有力で近づきやすい方法であることに変わりはありません。このシリーズでは、本学の教官・職員の皆さんにお願いして、こうした読書の助けになる書物や読書体験を語っていただくことにします。小説に限りません。「手にとってお読みなさい」。読書はまさしくあなたの能動的な活動なのです。

（附属図書館長 大江泰一郎）

私のお勧め本!!

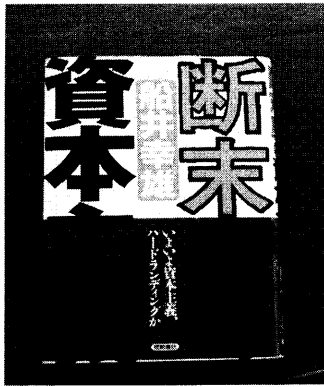
船井幸雄『断末魔の資本主義』徳間書房

配架場所：静岡本館・浜松分館開架 [332.06/F89]



浜松分館長 鎌田哲宏

1988年の夏休みに、世界一の福祉国家スウェーデンの福祉施設や人々の生活を見て回り、こんな素晴らしい世界もあったのかと感動し、帰国の途中、どうしても共産主義社会の現実を覗いてみたくなり、東ドイツの中を列車で通過しベルリンへ到着した。何時間も列車の窓



から見た東ドイツは、時おり「ビー」と呼ばれる小さな車がブンブンうるさい音を立てて走りすぎていく農村ばかりで、どう見ても「豊かな社会」とは思えなかった。東ベルリンから「ベルリンの壁」を通過する直前、列車は1時間以上も止められ、警察犬をつれた何人もの警察官が乗り込んできて、列車の隅々まで調べ周り、身体検査をされる乗客もいた。

西ベルリンに入り、「壁」の上から見た東ドイツは鉄条網と自動小銃を持った兵士の巡回する荒涼たる風景がつづいていた。これほど嚴重な警備をしなければならない社会はどこか間違っている、と強く思ったが、翌89年、「壁」は壊され、ソ連と東欧の共産主義社会は崩壊した。それは共産主義に対する資本主義の勝利を高らかに宣言するものであった。

しかしそれは実は「資本主義の終わり」の始まりでもあった。バブルの崩壊、倒産する企業、失業者の増大、回復見込みのない不況、「世界は断末魔の苦しみにあえいでいる」そして「資本主義のハードランディング（急速崩壊）が始まった」とこの本は断定する。著者の船井氏は30社の企業を経営し、経営コンサルタントをつづけてきた、資本主義の担い手の一人である。その体験から「資本主義は崩壊のセオリーを見事に踏襲している」と考え、資本主義の次の本物の時代を作らなければならないと主張する。

世界中に自由化を強要したアメリカは世界一安い原料を買い入れ、世界一安い労働力を使い、世界一高い価格で売れるところで売り、世界中の憎しみを買っている。国益に反する「京都議定書」に参加しないアメリカは「エゴ」によって作られた資本主義の代表であり、環境破壊は人類を破滅しかねない。企業の人員削減は内部から資本主義を崩壊させ、IT革命の進行が資本主義にとどめを刺す。この本はこのようなイデオロギー的に資本主義を批判しているのではなく、具体的、現実的に、事実 に即して資本主義の危機と人類の危機を警告しているのであり、説得力があって、面白い。

この不確定の時代に、悩み多い青春時代をおくっている学生にとって、未来社会と自分の将来について考える時、多くのヒントを与えてくれる著作である。

この2月から3月にかけてアメリカ、カナダの福祉施設を見て回ったが、空港の警備は厳しく、身体検査は嚴重で、何度も荷物の中からベルトや靴まで調べられた。要所要所に自動小銃を持った兵士が立ち、目を光らせていた。物ものしい光景を見てみると、私の脳裏にあの14年前のベルリンの厳しい情景がよみがえってきた。このアメリカはいつまでこの警備をつづけることになるのだろうか。

(情報学部情報社会学科 教授)

新・読書のすすめ

渡部昇一『知的生活の方法』講談社現代新書



工学部 橋本 岳

配架場所：静岡本館（文庫コーナー）・浜松分館開架 [081/KO19/436]
[081/KO19/538続]

図書館で“立ち読み”しよう

学生諸君は本を読むということにどのような気持ちを抱いているだろうか？ 本を“最初から最後まで読まなきゃ”と思っていないだろうか？

それによって、本を読むことが億劫（おっくう）になっていないだろうか？

もっと気軽に、図書館で“立ち読み”しよう。

図書館の本棚の前に立って、さっと見渡す。気に入った題目の本を手にとって、適当にページを開く。そして、目にとまった文を読む。気に入れば、その前後も読む。そして、本を元の場所に返して、次の本を探す。もちろん、その本を気に入れば、借り出して全体をじっくり読めばいい。そう、これはコンビニでの立ち読みスタイルだ！

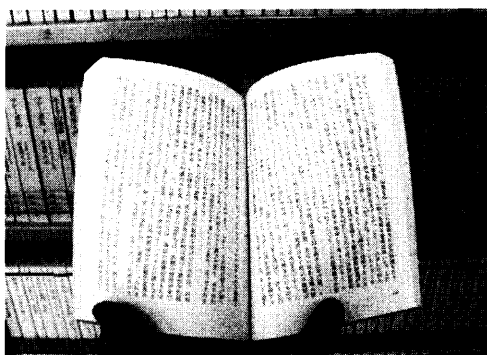
このように“つまみ食いの”に読んだ内容は意外と記憶に残っているものである。第一、1冊の本でもすべてが“重要”ではない（すべてが重要な本は一般に難解で読みにくい。要するに、“教科書”がそうだ）。著者が言いたいことを述べている部分、それを説明している部分、休憩している部分などがあり、本当に重要なのはほんの一部だったりする。

また、最初から最後まで一生懸命読んだ本の内容をどの程度覚えているだろうか？ 人間の記憶領域はそれほど多くないものである。ある部分を覚えれば、別のことを忘れるように出来ている（だからこそ、人間は悲しみを乗り越えられる！）。もちろん、本の種類によって、読書スタイルは違う。好きな小説なら、どんどん読み進めることができるだろうし、“教科書”なら1ページ読むのも大変疲れるだろう。

実は、本を書くのに必要な時間と、本を読む時間はものすごく違う。例えば、一冊の本を書くのには1年間もかかる場合があるが、読む場合には1日どころか数時間で読んでしまう。当然、書いてある内容の理解度には差がある（本を書く場合には、「て・に・を・は」という助詞を使うのに数時間も悩むこともあるが、読者はそこまで気づいていないだろう）。

本とネットとの違い

最近では、ネットサーフィンをする人が多いと思う。大学でも情報設備が整ってきているし、



自宅でもADSLで高速に常時接続ができる。しかし、ネットに流れる情報は、本のように深く吟味されていないことが多い点に注意すべきだ。

メーカーが発信する情報は間違いがほとんどない最新情報だし、公の機関や新聞社や大学のHPなどはとても参考になる。しかし、個人的なHPや伝言板での情報はやっぱり“井戸端会議”的な部分が多い。つまり裏話を知るにはとても便利だが、その情報が本当かどうかは読む側が判断しないといけない。だって（少し考えれば）、ネットの情報の多くは無料だが、本は有料で著者が必死になって書いたものだから当然と言えば当然である。

図書館ではこの価値ある情報を無料で読むことができる（もし気に入って本を買ったとしても数百円～数千円程度で自分のものにできる）。このように、図書館というのは、“知識の宝庫”と言っても過言ではないと思う。将来、本がネットで流される時代がくることは確実だ。そのときには、図書館は“情報の宝庫”としてますます価値を増すに違いない。

知的生活のすすめ

では、本を読む“意味”とは何なのだろう？ 読書とは、“文字から抽象概念を連想すること”である。そして、読書によって、“人生を豊かに知的に生きられる”という。

上智大学名誉教授・渡部昇一先生の「知的生活の方法」（講談社現代新書）は、知的な生活に憧れる熱心な読者に愛読されてきた。そして、この本を書かれた渡部先生がその後活躍されているのは周知の事実である（思想的な面はおいといて）。1976年発行の本だから、現在の感覚からは少し古くなった部分もあるが、それでも本質は十分通用する。

この本の中には、本を読むことの素晴らしさ、本を読むことで、人間の本質的欲求である知的生活を実現できることが述べられている。“本棚に知的な本が増えていることで、その人が知的生活を送っているかどうかを計ることができる”なんてくだりは身につまされる思いがする（先生とは分野が違うんだからと自己弁解している次第）。

最後に、同書から次の文を学生諸君に贈って、この悪文の締めくくりとしよう。

“貧しくて、しかも知的生活に激しくあこがれている若いときは、食事を倭約したり、バス代を倭約することは案外苦にならないものだ。”（P.82より抜粋）

（ある教官同士の会話：

「今時の学生さんに、こんなことを言っても無理ですよ～」

「でも、静大生なら、きっと共感してくれる学生さんもいますよ。期待しましょう！」）

（工学部電気・電子工学科 助教授）

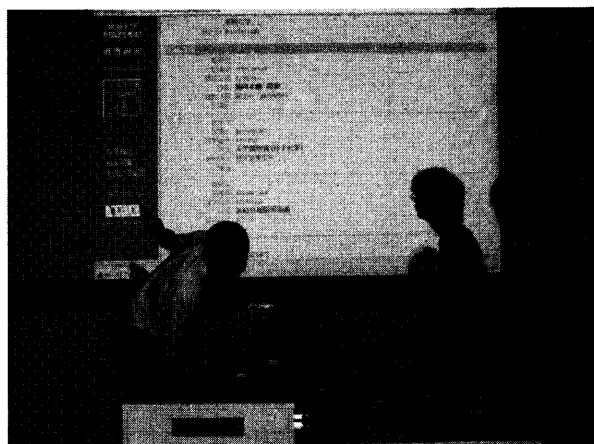
平成14年度附属図書館利用セミナー実施報告

今年度も新入生を対象とした附属図書館利用セミナーを4月16日から7月2日の期間で実施しました（本館45回、浜松分館30回実施）。3年目の今年度は附属図書館利用セミナーが新入生セミナーの必須の単元となり、新入生全員が受講することになりました。図書館に慣れ親しんでもらうための最初の機会を新入生全員にこの時期に提供できたことは、今後の学生生活で図書館を活用してもらうために大変意義のあることだと思います。

セミナーは2クラス30名程度を基本とし図書館職員3名で担当しました。以下がセミナーの内容です。

- 1) 図書館館内案内（図書館の使い方）
- 2) 静岡大学図書館蔵書検索（OPACの検索方法）
- 3) 学外蔵書検索（Webcatの検索方法）
- 4) 本館：CD-ROM(雑誌記事索引・CD-ASAX(朝日新聞記事索引)・辞書検索) 検索方法
分館：MAGAZINEPLUS・ネットで百科・文速の紹介
- 5) 図書館新サービスの紹介（電子ジャーナル、SwetScan等）（本館）
- 6) 館内案内（本館：書庫内ツアー 分館：開架スペースツアー）

図書館案内は大きなスクリーンのプロジェクターを使いプレゼンテーションソフトを使って行いました。学生だけでなく担当教官の先生からも分かり易かったとの感想を多くいただきました。セミナーの最後に記入してもらったアンケートには「図書館の使い方がよくわかりました。これからどんどん図書館を利用したい」、「図書館に関心をもつよい導入だったと思います（教官）」など励みになるご意見がありました。また「時間が足りない」、「日常的にパソコンを利用している学生が多いので検索実習に工夫が必要では？（教官）」などのご意見もいただきました。このような意見なども参考にしながら、さらにより役立つセミナーが実施できるよう、来年度実施に向けて取り組んでいきます。



<浜松分館のOPAC検索実習の様子>

<本館書庫内ツアーの様子>



シリーズ “！” 第8回

研究テーマから論文を探してみませんか？

日本の各種文献データベース（科研費・学位論文・引用文献）学会情報・研究者情報などが検索できるNACSIS-IRと日本の学会誌をFulltextで読むことが出来るNACSIS-ELSを紹介します。

図書館ホームページ左側Whats NewsのNacsis-IRをクリックしてください。



機関別定額制
であることを確認

日本語ページ または、Englishページ
NACSIS-IR または NACSIS-ELSを選択

NACSIS-IRを選択

終了後はこちら

データベース選択

検索したいデータベースをチェックし選択実行
(雑誌記事索引はNo.20)

ID	データベース名	更新日付
1	科学研究費補助金研究成果概要データベース [KAKEN] COPYRIGHT 国立情報学研究所	2002-04-02
2	学位論文索引データベース [GAKU] (1950 - 2001) COPYRIGHT 国立情報学研究所	2002-03-27
3	学会発表データベース [GAKU] (1950 - 2001) COPYRIGHT 国立情報学研究所	2002-05-08
4	学位論文データベース第一系 [PAPER1] (1959 - 2001) COPYRIGHT 国立情報学研究所	24.065 2002-03-23
5	学位論文データベース第二系 [PAPER2] (1983 - 2001)	21.050 2002-03-23

はじめまして竹村です！

皆様、はじめまして。情報サービス係の竹村です。この4月から附属図書館静岡本館で働いています。4階のサービスカウンターがわたしの仕事場です。

このカウンターでどんな仕事をしているかというと、おもに本の貸出や返却処理です。情報サービス係ではほかに、書庫にある雑誌や本を取ってきたり、新聞や雑誌を並べたりといった仕事をしています。朝、窓を開け、9時に図書館を開館するのも私の仕事です。

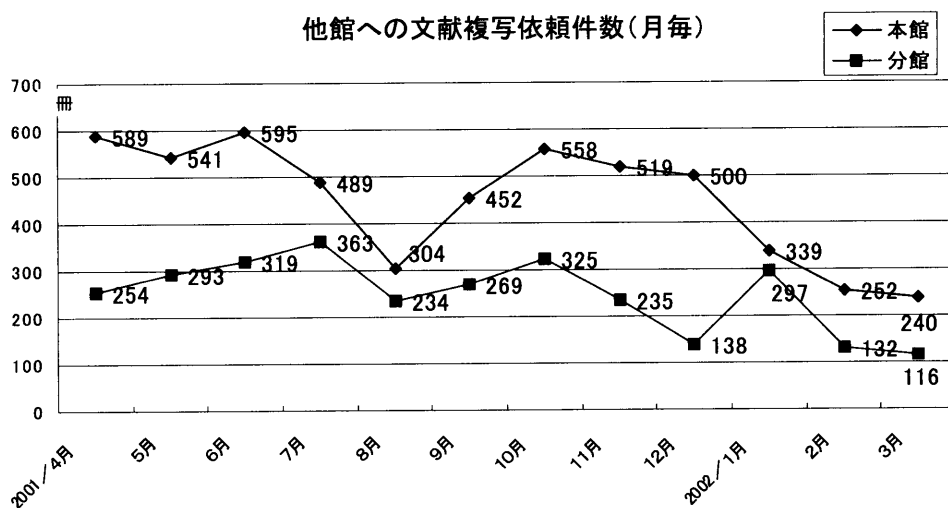
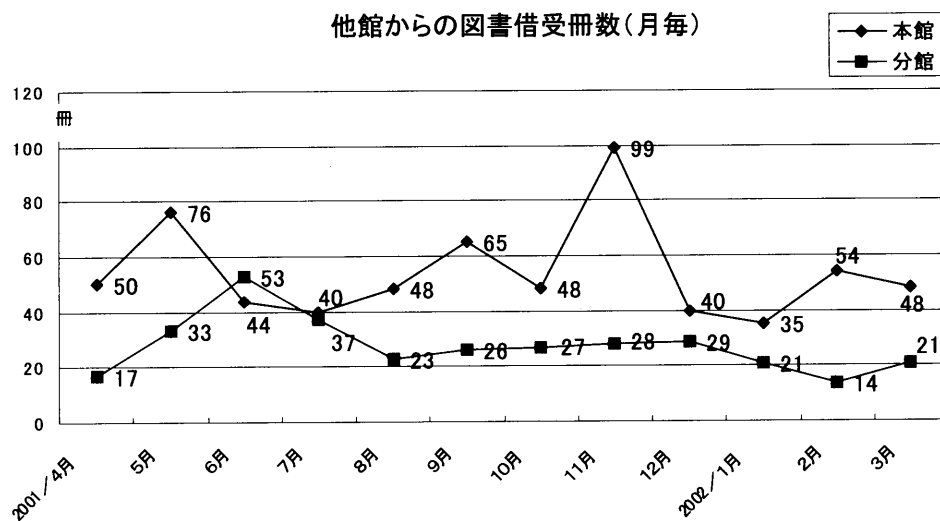
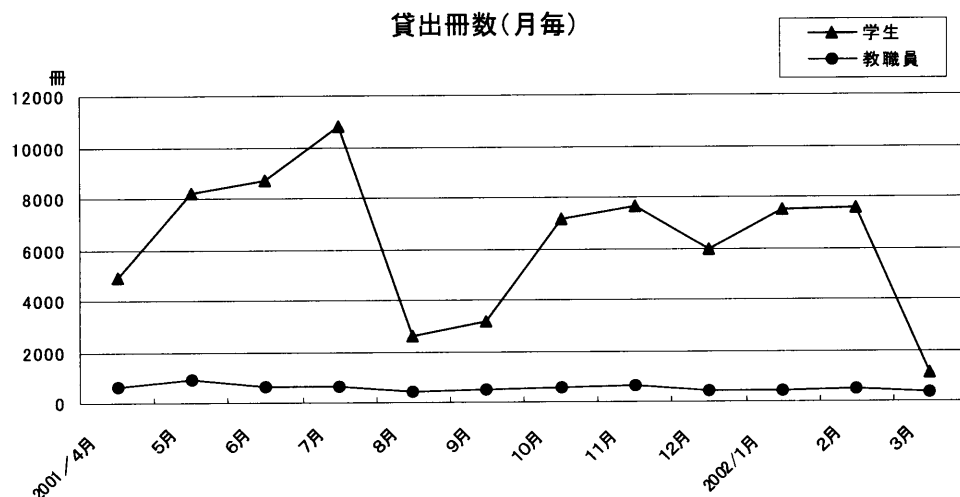


サービスカウンターには様々な方がいらっしゃいます。忘れ物をしたといったことから、本の検索の仕方がわからないといったことまで、まるでなんでも相談室のようです。働き始めた当初は、私自身が相談を受けても答えられず、先輩に聞きに行くというただの中継地点でした。最近になってようやく質問に答えられるようになり、少しずつ静大の図書館にも慣れてきたような気がします。

私も何年か前には学生として図書館を利用する立場でした。いま、カウンターのこちら側に立ってはじめてそれまで見えなかったことがたくさん見えてきました。その中のひとつは図書館の機能を維持していくための作業がおどろくほど多く、多岐にわたっているということです。今まで見てきた図書館員の方の仕事といえば、本の貸出・返却の処理をし、本を整理し、たまに図書館の使い方についての質問に答えてくれる、というくらいのものでした。ところが、私たちがしている仕事は、毎朝新聞や雑誌を並べたり、掲示板に貼るお知らせを作ったり、ゴミを拾ったり、ホームページを更新したり、本を修理したり……。直接利用者と接する仕事よりも、接しない仕事のほうが多いのです。しかしこれらは図書館を利用していただくのに大切な仕事だと思っています。

私は大学生のときから大学の図書館で働きたいと思い、図書館学を学びました。しかし現場に飛び込んでそれまでの勉強では足りないことを痛感しました。今後、自らも学び、経験を積んで、利用者によりサービスを提供できる図書館員になりたいと思っています。

◆◆◆◆◆ 平成13年度図書館利用統計 ◆◆◆◆◆



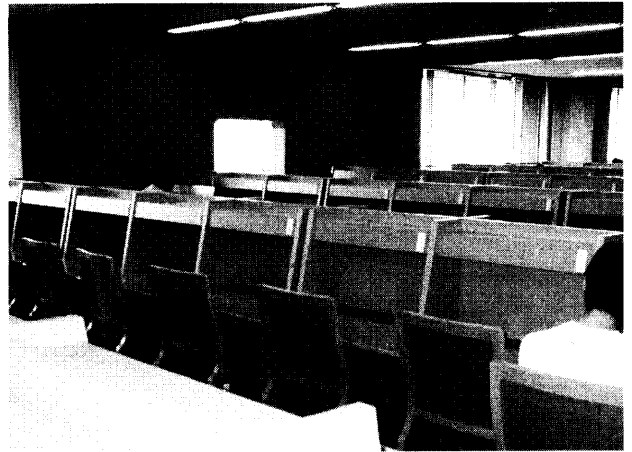
図書館からのお知らせ

〈静岡本館〉 5階閲覧室に新しい机と椅子！

従来の机はすでに30数年が経過し老朽化が著しく、文部科学省の特別な配慮により新しい机と椅子の導入が実現しました。

- ・ 衝立・照明・コンセントつきの木製の閲覧机33台(198席)
(そのうち36席は情報コンセントを設置)
- ・ 斬新なデザインで布地張りのハイバックタイプの椅子

より快適で学習しやすい環境になりました。



〈浜松分館〉 学生用図書が充実！

浜松分館では、4年一貫教育に伴い、3年計画で教養教育・専門（基礎）教育に必要な図書の整備を行ってきましたが、平成13年度で終了し、工学系中心から、人文・社会系を含んだ全分野に渡る学生用図書が整備されました。

開架図書全体	3.4万冊	→	6万冊
哲学・歴史学	2,000冊	→	4,000冊
社会科学系	2,500冊	→	5,700冊
文学・語学	2,200冊	→	3,400冊
参考図書	4,200冊	→	7,000冊 など

DVDやCDなどのAV資料も充実。是非ご利用ください。



「附属図書館利用マニュアル（教員用）」を発行しました

このたび附属図書館では教員用の図書館利用マニュアルを発行しました。

このマニュアルでは、図書・雑誌の購入及び新しい情報提供サービスを利用する方法等について細部にわたって説明するとともに、図書館サービスの担当窓口についての一覧表を掲載しています。また、蔵書検索、Web利用による図書の購入とILL（文献複写・図書貸借）の申し込み、及び電子ジャーナルと文献情報データベースの利用等の新しい情報提供サービスについては、検索画面の例示等を載せてよりビジュアルに分かり易くしました。

全教員一人に一冊ずつ配布しておりますので、図書館のより一層の活用のためにご利用ください。なお、このマニュアルや図書館利用についてのご意見等がありましたら、下記担当者までお寄せください。

担 当：情報管理課図書館専門員 畠山百合子

メール：hatake-y@adb.shizuoka.ac.jp

電 話：054-238-4473（内線2803）

図書館の動き

◆会議

平成14年度東海地区国立大学図書館協議会総会

(平成14年4月25日(木) 於：岐阜大学)

図書館長、事務部長、情報管理課長、情報サービス課長が出席。

国立大学図書館協議会関係諸会議の報告、地区協議会活動状況報告に続いて、文部科学大臣等に対して特に要望すべき事項、国立大学図書館協議会総会の分科会で検討するための協議題等について活発な協議が行われた。

また、当面の諸案件として、東海地区国立大学相互間の来館利用における条件緩和について、協議の結果、紹介状なしで来館利用できることとなった。

平成14年度国立大学附属図書館事務部課長会議

(平成14年5月21日(火) 於：一ツ橋会館)

事務部長、情報管理課長が出席。

文部科学省研究振興局長の挨拶に続いて、研究振興局情報課長から「大学図書館の当面する諸課題について」の説明、また名古屋大学附属図書館長による「新しい時代における大学図書館の役割について」の講演等、多彩な講演・説明が行われ、当面する諸課題への積極的な取り組みについて共通の認識を深めた。

平成14年度第1回静岡大学附属図書館委員会

平成14年4月22日(月)

○審議事項

1. 附属図書館関連委員会について
2. 平成13年度フォローアップ結果報告について

○報告事項

1. 附属図書館事務組織の変更について
2. 附属図書館利用セミナーについて
3. 平成14年度東部学生用図書選定計画について
4. 電子ジャーナル等の経費について
5. その他

平成14年度第2回静岡大学附属図書館委員会

平成14年6月13日(木)

○審議事項

1. 平成13年度図書購入費決算及び平成14年度図書購入費の配分について
2. 二次資料データベースの整備・導入について
3. 日曜・祝日開館及び土曜開館時間延長の試行について
4. 平成14年度附属図書館事業計画について

○報告事項

1. 浜松分館ワーキンググループについて
2. 平成14年度附属図書館資料(大型コレクション)収書計画における推薦資料について
3. 平成13年度図書館経費(運営費)決算及び平成14年度執行計画について
4. 平成14年度電子化・学術情報資料(電子ジャーナル)経費について
5. 平成14年度図書館利用セミナーの実施について
6. 図書館利用状況について
7. 附属図書館利用マニュアルの作成について

◆人事異動

平成14年3月31日<定年退職>

長南千恵子(運用係長)

平成14年4月1日<新規採用>

竹村 寛子(情報サービス係)

平成14年4月1日<転入・転出>

郡司 久(情報管理課長→名古屋大学附属図書館情報システム課長)
木下 彰(広島大学附属図書館情報サービス課長→情報管理課長)
兼子 悦治(総務係長→電子工学研究所大学院係長)
増井 三男(会計事務センター室第二係長→総務係長)
荻田美保子(管理運用係長→浜松医科大学附属図書館)
福井 郁夫(参考調査係→人事課任用係)

平成14年4月1日<配置換え>

佐藤 和慧(資料受入係長→図書情報係長)
山本 孝(目録情報係長→雑誌情報係長)
藤田みよ子(参考調査係長→情報サービス係長)
塚本 雅美(システム管理係長→レファレンス係長
(併)情報システム係長)
溜淵 文子(目録情報係→分館サービス係長)
真中 進(運用係→図書情報係)
村上真佐子(目録情報係→図書情報係)
大村悠紀子(目録情報係→図書情報係)
釜田香寿枝(システム管理係→雑誌情報係)
杉浦 昭重(資料受入係→レファレンス係)
芹澤 誠(管理運用係→分館サービス係)
近藤 久直(管理運用係→分館サービス係)
前田 勝典(管理運用係→分館サービス係)
尾藤 泰代(管理運用係→分館サービス係)
山川 玲子(システム管理係→情報システム係)
横山 芳美(参考調査係→レファレンス係)
杉山 泰代(資料受入係→図書情報係)
石田 朋子(目録情報係→雑誌情報係)
小林由佳里(運用係→情報サービス係)
武田 純一(運用係→情報サービス係)
勝野 雅子(管理運用係→分館サービス係)
神谷 一恵(管理運用係→分館サービス係)
田島喜代美(管理運用係→分館サービス係)
田中須美枝(管理運用係→分館サービス係)

◆平成14年度附属図書館委員会

館 長	大江 泰一郎
浜松分館長	鎌田 哲宏
人文学部	山本 節 佐藤 信一
教育学部	堀江 雅幸 西森 珠貴
情報学部	鈴木 淳之
理学部	芥川 一雄 鈴木 雅一
工学部	戸田三津夫 松丸 隆文
農学部	向井 譲 釜谷 保志
理工学研究科	鈴木 信行
電子科学研究科	松本 隆宇
電子工学研究所	喜多尾道火児 松本 晃一
附属図書館	石川 護

◆平成14年度図書館通信編集委員

館 長	大江 泰一郎	
情報学部(分館長)	鎌田 哲宏	
電子工学研究所	喜多尾道火児	
附属図書館	木下 彰	横井 華子
	大村悠紀子	釜田香寿枝
	山川 玲子	竹村 寛子
	杉浦 昭重	尾藤 泰代

夏休みの開館日程（静岡本館）

7月から9月は試験的に土・日・祝日も開館します。これにともない、開館時間もかわります。

7月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	
	8	9	10	11	12	
	15	16	17	18	19	
	22	23	24	25	26	
	29	30	31			

8月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	
	19	20	21	22	23	
	26	27	28	29	30	

9月						
日	月	火	水	木	金	土
	2	3	4	5	6	
	9	10	11	12	13	
		17	18	19	20	
		24	25	26	27	
	30					

☐ 開館 9:00～22:00

☐ 開館 9:00～17:00

☒ 土・日・祝日 開館 9:00～19:00

※臨時の休館日は、別途お知らせします。

● 返却期限日の変更

平成14年7月25日（木）から平成14年9月23日（月）までに貸出した図書の返却期限日は、次のとおりです。

平成14年10月7日（月）

夏休みの開館日程（浜松分館）

7月から9月は試験的に土・日・祝日も開館します。これにともない、開館時間もかわります。

7月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	
	8	9	10	11	12	
	15	16	17	18	19	
	22	23	24	25	26	
	29	30	31			

8月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	
	19	20	21	22	23	
	26	27	28	29	30	

9月						
日	月	火	水	木	金	土
	2	3	4	5	6	
	9	10	11	12	13	
		17	18	19	20	
		24	25	26	27	
	30					

☐ 開館 9:00～21:00

☐ 開館 9:00～17:00

☒ 土・日・祝日 開館 9:00～19:00

※臨時の休館日は、別途お知らせします。

● 返却期限日の変更

平成14年7月18日（木）から平成14年9月23日（月）までに貸出した図書の返却期限日は、次のとおりです。

平成14年10月7日（月）